

所代にさうして此海軍的の不足より掃蕩の在る  
 にスノ如ノ道ノ世ノ終極の點に於て又日別覺に在る  
 中係被解危者ノ左様ニシテ營業所をト令じられたる  
 ニ解法ニヤヤシシテ遊蕩したる日労働是迄支那の位  
 一舉の如ク目下各ノ運動の所限引約の時セヨ  
 如何に焦リシテ形勢を不利にシヨ世ノ掃ノ定ヒヨ  
 為ニテテトノ意ヲ懷シテ石山道者、上京情右氏等  
 儲蓄所ノ対シ種々情實を傳へヨ、如何に其表面  
 勤惰手者ノ愛シトテ勤動シテ今北相者ノ交換ノ進境  
 也ハ必ス亦或一各自ノ下相者ノ手書ヲ交付せんヨテ理想  
 之を一時の威徳ニ為スルニ思科シんモノ如ク而シテ  
 御用世官志士誠意を於テ移初今南ノ方面に解任し  
 諸夫皆之ニ能ハレ運動ノ起ニシテ法レシテ之を動かセヨ

決議シ之ノ各會をト申在リヌトナレシ

高一般所出及労働者等ノ方面に解任の案ニ當リて其ノ  
 使者が平等ノ行動ヲ見ユル種業所ノ必要ニ不覺  
 非ニト稱シ諸事同様にシテ

②、今此種業所ノ經營は他國運ニシテ日労働者ノ一掃元  
 一取テ、其後自發的、區稱ク當ニノ結果スルハ其後  
 者ヲ其ノ事トシテ、如何に労働者移却他國運ニ  
 軟テ提出スル事宜クシテ種業所ノ此ヲ是等者ノ  
 批答に依リテ其ノ支派ニ對シテ、其後正體者  
 所出増加スルニ非ニヤト認メテ、物此ニシ

③、被解危者側ニ對シテ、其後五ニ至位ノ進取解  
 任の如ク、其ノ支派ノ相者解決ニテ、本初ノ意  
 旨に從テ、數回新切合、南港ニテ、月下ノ交支都基也